

平成 27 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」（高齢者いきいきセンター）

開催日時	平成 27 年 10 月 19 日（月）午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	高齢者いきいきセンター	
町民参加者	男 25 人 女 2 人（40 代以下 0 人、50 代 3 人、60 代以上 24 人）	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、参事兼都市整備課長、総務防災課長、環境担当課長、学校教育課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：廃屋の対策について》

- 空き家対策特別措置法が 5 月に施行されて状況が変わったが、運用事例がなく各自治会も戸惑っているという。どこに廃屋があって、どれから始めていくかという順番を町として決めていく必要があると思っている。
- 衛生的な面とタバコによる火事や悪い人の住家になったら怖いなどの防犯面が最初に浮かぶため、その後のことを考えるよりも、まずはその危険性を排除してもらうというのを優先してもらいたい。
- 斑目の地域にツルが絡まっている物件があるが、それは廃屋の定義になるのか空き家の定義になるのか教えてもらいたい。

《テーマ：県・町道の車両増加に伴う整備計画と通学路の安全・安心について》

- 小田原百貨店が出来る前と比べると倍ちかく大型車と買い物客の車が増えている。松田方面からのお客も来るため、旧 246 の向原の信号から小田原百貨店までも車が多くなっている。今後の県道と町道の整備計画を教えてもらいたい。
- 去年の座談会で連合自治会から、トヤマの工事車両が増えて学童の安全のため、川村小学校のところに歩道橋を作ってほしいと話をした。町からは工事が終わった後、トヤマ関係車両や観光客が訪れるようになった際に、その状況を見て判断したいと回答があった。今回は、歩道橋の予算を考えるならば、越地にも道が増えたので既存の通学路以外にもっと良い新しい通学路を考えてみたらどうか。
- 湯坂地区の一番交通量が多い道路が狭いため、子どもの安全も含めて道路の拡幅をお願いしたい。地権者の要望も踏まえて現地立会いをし、お互い文書ですり合わせを行った。優先順位を付けて 3 か所の要望を出しているの、実現に向けて計画を作ってもらいたい。

《テーマ：町政全般》

- 小田原百貨店が出来て車を持っている人は便利になったが、湯坂地区の人で車を持っていない人は今まで岸ストアーを使っていたが、その岸ストアーが無くなってしまった。小田原百貨店や商店の方に町から補助をする形で、安価な配達料で配達をしてくれるようなシステムを作ってもらいたい。
- 岸ストアーを使っていた人は、バスに乗るのもやっとな人である。小田原百貨店では、金額が決まっているかはわからないが、自治会で買い物をした際に配達をしてくれたこともある。
- 日向地区から広域避難場所に行く経路に急傾斜地がある。昨年、この急傾斜地が非常に危ないため、日向活性化施設を臨時的に避難場所にした。最近2度ほどがけ崩れがあったので、雨量について通行規制する等のことは考えているのか。
- 高瀬橋の急傾斜地の問題については、日向断層があり、調べても詳しいことがわからない。急傾斜地と日向断層の関係について、どう考えているのか。
- 高瀬橋の辺りにおいて、過去に水が増えて氾濫しそうになったと聞いている。川が氾濫するという形でのハザードマップ等の整理もお願いしたい。高瀬橋の下流については、過去に水が増えて堤防を越えることが何度かあったため、浚渫工事などもお願いしたい。
- 避難所になっている場所が急斜面と被っているところがあり、もう少し検討が必要ではないかと思う。
- 川村用水のことについて、出来てからだいぶ経っているが漏水がひどい。道路が陥没してしまい、農機具もやっとな入れられる形で、橋もだいぶ老朽化している。
- 洞海堀下の部分は暗渠になっているが、上の部分は暗渠になっていない。どこかから何か飛んできて詰まってしまう可能性があるため、上の部分を暗渠にしてもらえれば一番いいと思う。